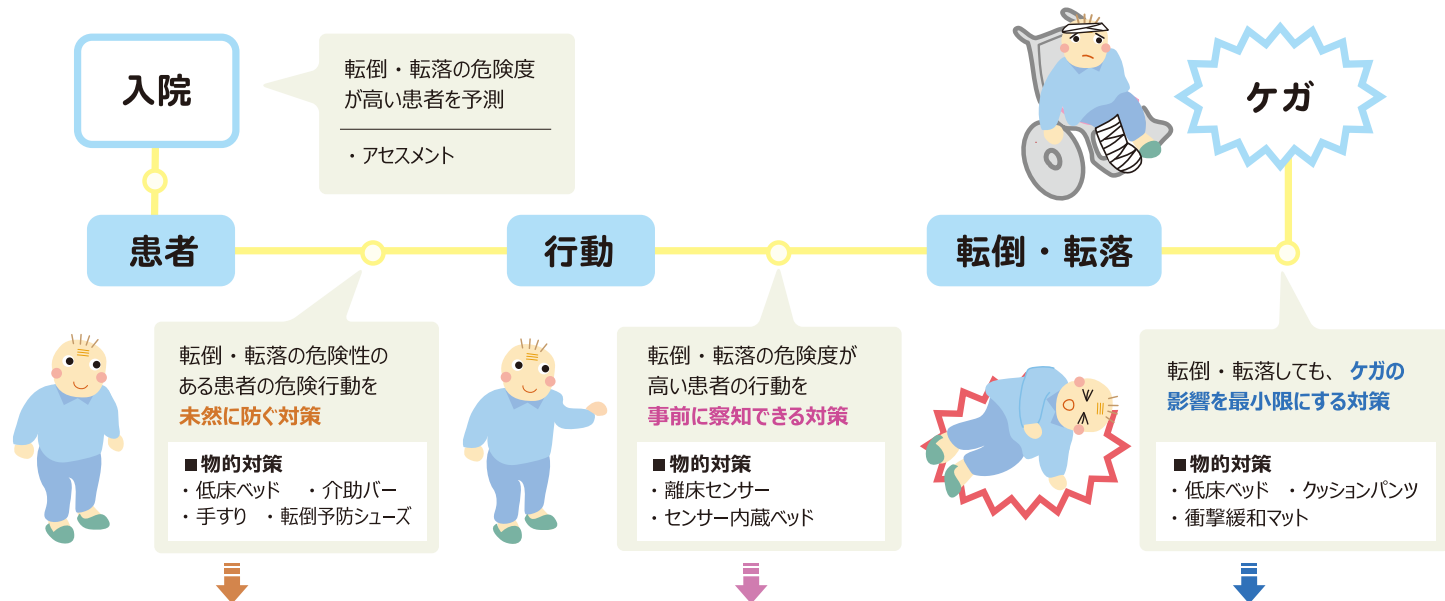




今月のテーマ 「病院の転倒対策はどうしている？ - 物的対策編 -」

転倒・転落事故を防止するためには、どんな対策がどのタイミングで有効なのか？先月号では転倒・転落事故を防止するための「人的対策」をご紹介しました。今月号では「物的対策」ツールを、①事故を未然に防ぐ、②危険行動を事前察知できる、③事故の障害を軽減する、の3項目に分けてご紹介します。



事故を未然に防ぐ

転倒を予防する「シューズ」

目的：歩行時の転倒防止
特徴：脱げにくい、すべりにくい、ひっかかりにくい構造になっている。

危険行動を事前に察知できる

センサーが内蔵された「ベッド」

目的：特定行動の報知による転倒・転落防止
特徴：ベッドからの対象者の離床行動（起き上がり、端座位、離床、見守り）を検知してナースステーションに知らせる。

事故による障害を軽減する

衝撃を緩和する「マット」

目的：ベッドサイドでの転倒・転落の衝撃緩和
特徴：ベッドからの転落や転倒による衝撃を緩和する。ウレタン製のものや、筋力が低下し、つま先があがりにくい方向にむけて考えられた薄いタイプ、またジョイントタイプで部分的に洗えるものなど、様々な種類がある。

転倒を予防する「靴下」

目的：歩行時の転倒防止
特徴：履くだけで足指があがり、歩行をサポートする構造になっている。

危険行動を事前に検知する「離床センサー」

コールマット・コードレス
ベッドコール・コードレス
株式会社テクノスジャパン

目的：特定行動の報知による転倒・転落防止
特徴：対象者の動きをセンサーが検知し知らせます。
離床センサーは、抑制しないツールとして多くの病院や高齢者施設で使用されています。センサーの種類が豊富なので、対象者のADLに合わせ報知したいタイミング、様々な設置環境に対応しています。
予測不能な行動をする方や、患者状態の変化が早く対応がきれない場合でも、センサーで行動が把握できるので、スタッフの精神的な緊張が緩和されます！

コードレスで設置もかんたん！